

# 釜石市多文化共生推進プラン（R3/2021年—R7/2025年）概要

## 『世界とつながる KAMAISHI』

### I. プラン策定の趣旨

- 1 市民と外国人が共に文化的違いを認め合い生活できるまちづくりを進めるため、多文化共生の考え方について広く普及を図るとともに、多文化共生社会の実現に向けた取組を進めるためのプランです。
- 2 「第六次釜石市総合計画」および市が策定している他の計画と整合を図りつつ、補完・連携しあうものとして位置づけます。
- 3 対象期間は令和3年度から7年度までの5年間です。

### II. 目的

本計画は、市において多文化共生施策を推進し、次の i～iii を図ることを目的とします。

- i グローバルな視点を持ち多様性を認め合える市民が育つまちづくり
- ii 外国人市民等の社会参画による地域の活性化
- iii 外国人市民等を含む全ての人にとって暮らしやすいまちの実現

### III. 釜石市の多文化共生における現状と課題

#### 1 在留外国人の状況

令和2（2020）年12月末現在の在留外国人数：253人

【国籍別】ベトナム70.4%（178人）、フィリピン6.3%（16人）、中国・韓国各4.0%（各11人）

【在留資格別】技能実習59.7%（151人）、特定活動15.4%（39人）、永住者・特別永住者10.3%（27人）

【生活応援センター別】釜石地区43.9%（111人）、小佐野地区19.8%（50人）、鶴住居地区13.9%（35人）

#### 2 現状と課題

当プラン策定のために在留外国人に対して実施したアンケートの結果及びこれまでの市の取り組みを通してみえる現状と課題

##### (1) 外国人市民等の暮らしについて

**現状：**アンケートの結果から総合的に釜石での生活には満足しているとみられますが、項目によっては満足度が低いものもみられます。

**課題：**外国人市民等が地域とつながっていると感ずることができていない、日常の困りごとを相談できる選択肢が少ない、災害発生時に安心して行動できない

##### (2) 人材育成について

**現状：**外国語講座、海外体験学習事業などの実施

**課題：**市民が外国語を学ぶ機会が少ない、海外で貴重な経験をした生徒がその経験を生かす場がない、グローバル人材の育成スキームが不十分

##### (3) 国際理解について

**現状：**国際交流員（CIR）の配置による国際理解の普及啓発活動の実施、外国語指導助手（ALT）の配置による児童・生徒の国際感覚の習得

**課題：**国際理解の普及啓発のための市民への説明が少ない、外国人に対して漠然とした不安を抱いてしまう、外国の文化に触れる機会が少ない

【多文化共生】 国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共に生きていくこと

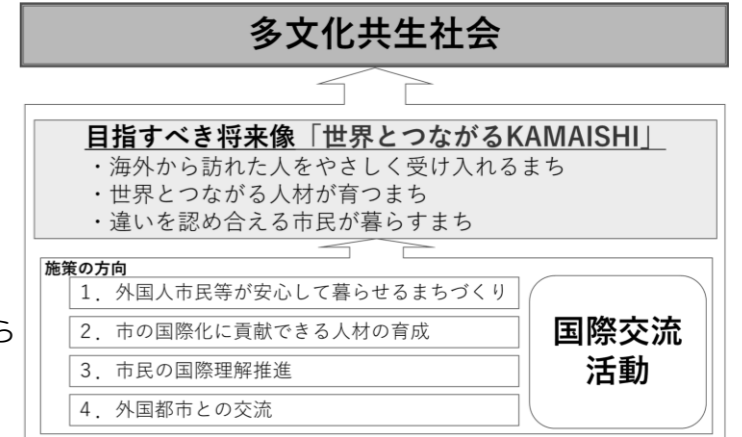
【外国人市民等】 外国籍の人、また、日本国籍を有する人であっても外国にルーツを持つ人で、釜石市に生活の拠点を有する人のこと。

### IV. 目指すべき将来像

#### 『世界とつながる KAMAISHI』

- ◆ 海外から訪れた人をやさしく受け入れるまち
- ◆ 世界とつながる人材が育つまち
- ◆ 違いを認め合える市民が暮らすまち

昭和12（1937）の市制施行以来83年の歴史には様々な海外との交流があります。それらを継続しながら多様な文化を受け入れ、互いの違いを認め合うことができるまちを目指します。



### V. 当市における多文化共生推進のための施策の方向

#### 1 外国人市民等が安心して暮らせるまちづくり

- 地域コミュニティの中で外国人市民等が安心して暮らせるまちを目指す
- 取組み① 外国人相談窓口の充実
- 取組み② 生活情報の多言語での情報提供
- 取組み③ 地域との関係構築のための支援
- 取組み④ 外国人に配慮した防災情報の発信
- 取組み⑤ 外国籍の子ども（幼児・児童・生徒）の受入態勢構築の推進

#### 2 市の国際化に貢献できる人材の育成

- グローバルな人材が育成され、その人材が多文化共生の地域づくりのリーダーとして活躍するまちを目指す
- 取組み① 海外体験学習事業の実施と、経験を生かせる場の創出
- 取組み② ボランティアの育成と活用
- 取組み③ ラグビーをきっかけに世界に通じる人材の育成
- 取組み④ 英会話等外国語講座の開催と充実
- 取組み⑤ 市職員の外国語コミュニケーション能力の向上

#### 3 市民の国際理解推進

- 日本人市民と外国人市民等が相互に交流し、多文化共生に関する理解が広がっているまちを目指す
- 取組み① 多文化共生の地域づくりの啓発
- 取組み② 国際交流員（CIR）の活用
- 取組み③ 釜石市国際交流協会との連携

#### 4 外国都市との交流

- 世界とつながる三陸の拠点都市として外国都市と継続した交流が行われるまちを目指す
- 取組み① 姉妹都市【ディニュー・レ・バン市】との交流
- 取組み② 復興「ありがとう」ホストタウン【オーストラリア】との交流
- 取組み③ RWC2019 岩手・釜石開催出場4か国【フィジー、ウルグアイ、カナダ、ナミビア】との交流
- 取組み④ 【オランダ】との交流

### VI. 推進体制

文化スポーツ部国際交流課が、国及び県の動向や社会情勢の変化等を踏まえ、庁内関係部局と横断的な調整を行うとともに、庁内に連絡会議を設置するほか、釜石市国際交流協会など関係機関とも連携・協力し、本プランを推進していきます。